

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	枝廣 泰知	担当者名	幸田 峻一
-----	-------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『文化活動発表会』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	----------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

主体性・積極性

取組のねらい

○企画や運営から生徒が主体的に参加し，学年・学級の枠をこえてかかわり合うことで，学校集団としての活力を高める。

取組の具体的内容

- コロナ禍で文化祭に替わるものを行うために模索した結果，近隣のはつかいち文化ホール（さくらびあ）で文化活動発表会を行った。
- 廿日市中学校伝統のソーラン節（3年生有志）から始まり，各クラス合唱・放送部や吹奏楽部の発表を行った。
- クラス合唱では，コンクール形式はとらずに練習時間やコロナ禍を考慮し，同じ曲・短い曲で行った。

取組の創意工夫

- はつかいち文化ホールで行うに当たり，収容人数の関係上（制限あり），全職員が生徒につけなかったため，企画から生徒会執行部を中心に行った。
- 展示等の当日の発表が難しいものについては，校内の空き教室を利用し，展示スペースを作った。展示期間も設け，保護者にも見学できるようにした。



取組の成果と課題

- 学校評価アンケート（生徒用※3年生） クラスの中に自分の居場所がある  
7月 96%（3そう思う：37% 4とてもそう思う：59%） 12月 98%（3そう思う：28% 4とてもそう思う：70%）  
→3年生にとって行事というのは，絆作りにおいて重要な場であることが再認識できた。特に，コロナ禍において短縮された行事であるが，文化祭に替わるものを行ったことは効果があった。
- アセス結果  
他の要因も考えられるが，課題であった3年生の自己有用感がさらに向上している。
- コンクールではなく，発表という形で終わったので，生徒の達成感につなげることが難しかった。来年度以降も，どのような状況になるのか分からないので，練習過程や振り返り等を工夫し，生徒の達成感やクラスの絆作りにつなげていきたい。